

# 第1学年3組 算数科学習指導案

令和3年10月28日(木) 第3時 1年3組教室 指導者

## 1 単元 たしざん(2)(8時間完了)

### 2 目標

- ・繰り上がりのある計算の仕方について理解し、(1位数) + (1位数)の繰り上がりのある計算ができる。(知識・技能)
- ・「10の補数」という考え方のよさに気づき、加数を分解してたす考え方ができる。(思考・判断・表現)
- ・繰り上がりのある計算に興味をもち、計算の仕方や規則性について、進んで話し合ったり、伝え合ったりしようとする。(学びに向かう力、人間性等)

### 3 指導計画

学習活動	時間	教師の支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>○10をこえるたしざんのけいさんのしかたをかんがえよう。</li> <li>・8 + 4の計算の方法を考える。</li> <li>・8 + 4のよりよい計算の仕方を考える。</li> <li>・計算の方法を言葉で説明をする。</li> </ul>	3 (本時 2/3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10の補数に着目できるように、「10 + ○の計算」や「あといくつで10になるか」の練習をするように指示する。</li> <li>・子供たちが自分の考えを示しやすくするために、数図ブロックを図で書いたワークシートを用意する。</li> <li>・10の補数に着目をした計算のよさに気付くために、他の方法と「能率性」「簡潔性」「一般性」を基準にして比べ、話し合う機会を設ける。</li> <li>・子供たちそれぞれが言葉で説明ができるようにするために、「まず」「つぎに」「そして」のような言葉を使うとよいことを助言する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○いろいろな、10をこえるたしざんのけいさんのれんしゅうをしよう。</li> <li>・被加数を固定したたし算の練習をする。</li> <li>・被加数が5以下のたし算の練習をする。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的に10の補数に関する計算の練習を行うように指示する。</li> <li>・念頭操作へ移行していくために、数図ブロックを使って考える問題と、使わずに考える問題を分ける。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○たしざんのカードのならばかたについてかんがえよう。</li> <li>・たし算カードを使い、計算の練習をする。</li> <li>・たし算のカードを並べかえ、気付いたことを話し合う。</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供が徐々に計算に慣れていくために、順番に並べたカードから、ランダムに並べたカードへと、段階的に練習をするように促す。</li> <li>・たし算の規則性の美しさに気付くために、グループごとに様々な並べ方を試すように指示する。</li> </ul>

### 4 本時の学習指導

#### (1) 目標

- ・繰り上がりのある計算について、「10の補数」に着目をした計算の良さに気付くことができる。(思考・判断・表現)

(2) 展 開

時間	学 習 活 動	教 師 の 支 援
導入 (3) 課題 (1)	1 10+○の計算をする。 ・10+5=15 10+7=17 2 本時の学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">             8+4の よりよいけいさんのしかたを かんがえよう           </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算することを楽しくめるように、リズムに合わせて計算をするように指示する。</li> <li>・本時の学習課題を提示する。</li> </ul>
展開 (36)	3 前時までに考えた、8+4の計算の考え方を発表する。 ① かぞえると12になる。 ② 2のまとまりをつくってかんがえる。 ③ 5のまとまりをつくってかんがえる。 ④ 10のまとまりをつくってかんがえる。 4 グループで、①～④のどれが、よりよい計算かを話し合う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数図ブロックをならべて数えるのが一番簡単だよ。</li> <li>・「に・し・ろ・は」と数えられるから2このまとまりをつくるのがはやそう。</li> <li>・数えるのは、ブロックがなかったら難しそう。「どんなときも」には合わないよ。</li> <li>・10のまとまりをつくると、数図ブロックがなくてもできそう。</li> </ul> </div> 5 全体で話し合う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10のまとまりをつくってから考えるのが一番速いし、簡単にできると思う。</li> <li>・数えるのは簡単だけど、答えの数が増えたり、数図ブロックがなかったりしたらできないから、10のまとまりをつくる計算の仕方がどんなときでもできていいと思う。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時までに子供たちの考えを把握しておき、複数のパターンの考え方が出てくるように、意図的指名をする。</li> <li>・数図ブロックの動きがわるように、数図ブロックの絵や矢印を使った板書をする。</li> <li>・「よりよい」とは「はやい」「かんたん」「どんなときも」であることを確認する。</li> <li>・①から④までの考え方が曖昧にならないように、それぞれの考え方を図に記した、考え方カードを用意する。</li> <li>・実際に数図ブロックを動かしながら話し合いができるように、各グループに1つずつ教師用の数図ブロックを用意する。</li> <li>・①の考え方に偏っているグループには、数図ブロックがない場合や、加数が4よりも大きい場合についても考えるように助言する。</li> <li>・意見の関わり合いを増やすために、「おなじ・つけたし」「ちょっとちがう」「あたらしいけん」で分けたハンドサインを出すように指示する。</li> <li>・④の考え方がよいと意見がまとまってきたら、8+4以外の繰り上がりのあるたし算を出題し、10のまとまりをつくる考え方のよさを実感できるようにする。</li> </ul>
整理 (5)	6 振り返りをする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">             数える計算の仕方が一番簡単だと思っていたけど、10のまとまりを作ってから計算したほうが、どんなときでも簡単に、速く計算できることが分かった。           </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いを通じて、今の自分がどの計算がよりよいと考えているか、理由を含めて記述するように指示する。</li> <li>・10のまとまりをつくるよさについて記述している子供を指名する。</li> </ul>

5 評価

- ・8+4の計算について、10のまとまりを作ってから計算をすることの良さに気付くことができたか。  
 (児童の活動4、5、6より)